

(11)Publication number:

52-078374

(43)Date of publication of application: 01.07.1977

(51)Int.Cl.

H01L 21/31

(21)Application number: 50-155278

(71)Applicant: NEC CORP

(22)Date of filing:

25.12.1975

(72)Inventor: SHOJI SATORU

## (54) PRODUCTION OF OXIDE INSULATED FILM

(57) Abstract:

PURPOSE: To realize the simplification of production process without radiating light and without using a silicon nitride film for a masking material and to obtain a thick oxide insulating film of more than  $1\mu$ m, at the time of making an N type silicon porous.

#### **LEGAL STATUS**

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

# Japanese Unexamined Patent Publication No. 52-78374/1977 (Tokukaisho 52-78374)

The following is a partial English translation of exemplary portions of non-English language information that may be relevant to the issue of patentability of the claims of the present application.

According to the method of manufacturing an oxidized insulation film of the invention, first, a porous layer is formed by anodic reaction using a photosensitive resin as a mask and a mixture liquid of HCl (wt. 39%) and HF (wt. 48%) as an anodic reaction solution. In this case, if the anodic reaction ammeter is set to 0.3 mA/cm<sup>2</sup>, the formed porous layer is crystallographically a single crystal. The pore density is not so high as to take amorphous form. After that, the porous layer is doped with a diffusive impurity which has the same polarity as the substrate at low temperature and for a short period of time (e.g., 900 °C, 30 min.). The diffusion coefficient in the porous layer is as high as 300 times or more. Therefore, the impurity readily Regions diffuses into the porous layer. higher concentration than in the substrate extend beyond the porous material region. After that, anodic reaction is

carried out in HF (wt. 48%) in the absence of external application. When the pore-remaking process voltage reaches the high concentration regions, the anodic reaction current falls sharply as shown in Figure 5. If the anodic reaction is stopped at this time t1, a quasi-amorphous porous layer with high pore density is formed all the way to high concentration diffusion regions. After that, the formed short-time, insulation film is by oxidized low-temperature thermal oxidation, e.g., in saturated water vapor of 900 °C for about 10 min.

First, as shown in Figure 6, a part of an n-type semiconductor substrate 1 on which an oxidized isolation film will be formed is removed in advance by photoetching. Anodic reaction is carried out in a mixture liquid of 700 cc of HCl (wt. 39%) and 10 cc of HF (wt. 48%), in order to form a porous layer 7. In the figure, 5 indicates a 1000 to 2000 Å oxidized film. 6 is a photosensitive resin. After that, as shown in Figure 7, a high concentration n-type diffusion region 8 is formed by diffusing an n-type diffusive impurity, e.g., phosphor, so that the surface concentration can be at order of magnitude greater than least one concentration in the substrate. For example, the region 8 is formed by diffusion of POCl<sub>2</sub> at 950 °C for 20 min. After

that, anodic reaction is carried out in HF (wt. 49%) in the absence of external voltage application to transform the porous region 8 into a quasi-amorphous porous layer 8' with high pore density. After that, as shown in Figure 9, an oxidized insulation film is formed by short-time, low-temperature thermal oxidation, e.g., in saturated water vapor of 900 °C for about 10 min.

### 19日本国特許庁

# 公開特許公報

切特許出願公開

昭52—78374

①Int. CI?.
H 01 L 21/31

識別記号~

砂日本分類 99(5) C 23 庁内整理番号 7216—57 ❸公開 昭和52年(1977) 7月1日

発明の数 1 審査請求 未請求

(全 3 頁)

### 母酸化絶縁層の製造方法

顧 昭50-155278

**❷出** 願 昭50(1975)12月25日

⑩発 明 者 小路哲

②特

東京都港区芝五丁目33番1号日

本電気株式会社内

⑪出 願 人 日本電気株式会社

東京都港区芝五丁目33番1号

⑩代 理 人 弁理士 内原晋

94 #45 #

1. 発明の名称

製化絶報圏の製造方法

#### 2. 俗許請求の範囲

一導電型の半減体基板に陽極反応法により。 勝極反応時には外部電圧を印加し、選択的に結 晶学上は、完全に単結晶构造の強な孔出度を 有する多孔質層を形成し、当基板と簡異電型 の拡設不純物を当多孔質器に逐択的に拡散し、 勝低反応時に、外部電圧を印加する事、無く、 勝強反応を生ぜしめる事により、少くとも、 当多孔質層を含む当拡敗領域に、再び多孔質 化処理を施し、当多孔質領域を酸化熱処理に より便化絶象層となす優化機像層の製造方法

#### 3. 発明の詳細を説明

本発明は、酸化絶級層の製造方法に関し、 しかも、低風の酸化熱処理による厚い(1 **μπ以上)酸化贮設脂の製造方法に関する。** 

**使来厚い酸化砲級層を形成する手段として、選** 択渡化技術多孔質シリコン形成技術の2つが一般 的に知られていた。そして、透訳像化技術による 場合は、先ず、第1図にその断面図を示す如く。 例えば1なるN型半導体基板上に、その敵化マス クとして、 2 たるシリコン 畠化膜を形成し、その 後、第2図の3に示す如く、微化絶縁層を高温, 及時間の設化性雰囲気中での熱処理により形成し ていた。しかしながら、当技術による場合は、約 2 μm の関厚を有する酸化絶職階を形成する為に は、1100で、9時間の細和水蒸気中での熱処壁を 必要とした。従つて、この高温、長時間の酸化熱 処理により、結晶欠陥が膨起されていた。この紹 晶欠陥は、後続の工程において、半導体基板に形 成される紫子の電気的特性を著るしく劣化せしめ ていた。

斯様に、選択酸化技術は、当技術により形成される破化膜厚は、たかだか 2 mm 種 度である事。 しかも、高級の酸化熱処理時に多くの結晶欠陥が

20

•5

15

3.学期簿

3 学探入

20

勝起される事等の欠点を有していた。

又、多孔寅ンリコン形成技術による場合は、先
す、 第3図に示す如く、1なるN型基板上に、多
れ頃シリコン形成の鳥のマスク2なるシリコン選
化膜を設け、邦限(wi 48分)溶液中にわける勝 極反応により、4なる多孔質層を形成し、その後、 線4図の4で示す如く、彼化無処理により、4な る多孔質領域を微化絶験層となす。この場合、使 化熱処理温度は、900で 位の低温である。しかし ながら、第1図の4なる多孔質層形成時に、 光を 照射し、ホールを綺起する必要があるとか、 陽便 反応電視のウェハー内における不均一性に起し で、形成される多孔質層限さ、彼つて、 酸化絶線 間考にバラッキを生じていた。

本発明に係る概化的機関の製造方法は、延来技術の緒欠点を除去した製造方法を提供するものである。

「本発明に係る酸化絶機層の製造方法によれば、 先ず、光磁性樹脂をマスクとして、HCl(wt-39 多)とHF(wt-48%)との協合溶液を陽磁反応溶

斯様な,本発明に係る酸化絶縁層の製造方法によれば低温の酸化熱処理により、厚い酸化絶縁層が 得られる場となる。そして、従来の多孔質シリコン 製造技術による場合と比較して、N型シリコン を多孔質化する場合、光を照射する必要が無い事、 選択的に多孔質層を形成する場合、そのマスクと して、シリコン選化膜を必要とせず、光感性樹脂 で可能である為に、製造工程が削略化される学と なる。

以上, 本発明に係る版化絶縁所の製造万法の一 準施例について脱明する。

先ず、無6図に示す如く、1 なるN型半典体基 板の個化純緑俗形成部分上の限化膜を予めホト・ エッチング法により、エッチング除去し、HCl (wt. 39 %) 700 cc、HF (wt. 49 %) 10 cc の混合溶 液中にで、暖板に応を生せせしめる事により、7 なる多孔質層を形成する。以中、5は1000~2000 足の膜化類、6は光線性個脂を示す。その後、第 7に示す如く、8 なる高濃度N型拡散領域をN型 拡散不純物例えば、リンをその表面濃度が、基板

破として、使用し、陽感反応法により、多孔質膚 を形成する。との場合、陽松反応電流を例えば0.3 mA/caに設定すると、形成される多孔質的は、結 晶学的には、単結晶の構造を有し、アモルフアス 状態になる程。孔密度は大でない。しかる後,と の多孔質階に、基板と同事質型の拡散不穏物を低 品。しかも短瞬間(例えば 900 で 30.分間)新すと。 多孔質層中における。不純物拡散係数は。300倍 以上と大である為に、容易に、多孔質領域中には。 不純物が満され、密報と比較して、高級版の領域 が、多孔質領域外迄、伴びるしかる後、HF(wi. 48%)中にて、外部電圧を印加する事をく、陽極 反比全地世位,高滋度假敏远,冉多扎愈化处域加 進行した瞬点で出る図に示す如く、関極反応電流 が削縮に低下する。との時間は、彼に、脳極反応を 打ち切ると,アモルファス形態に近い,孔密度の 大なる多孔質腫が、高濃度拡散節域迄、形成され る事となる。その後、900で、<del>10分</del>線和水蒸気中・ | 国程度の低値、短時間の酸化熱処理により、酸化

破鹿と比較して、少なくとも、1 桁以上大となる 様に拡散するなにより形成する。例えば、950 ℃ POC8,20分 高拡散する事により8 なる低敏を形 成する。その極、HP (wi. 49 %) 中にて、外部電 匹を印加する事無く、勝極反応を生ぜせしめると、 8 なる多孔質化領域は、8 なる孔密版の大なる 丁 モルフアス形塊に近い、多孔質側が形成される等 となる。そして、その後、解9 図の9 に示す如く、 低温、短時間の依化粘処理例えば、900 ℃、10 分間 程度の飽和水蒸気中にかける処理により、酸化熱 数層な形成する。

絶縁層は、形成される事となる。

以上、本発的は、本結別の主旨を追続しない範囲で、減止の変更を加えて、米加する事ができる ものとする。

#### 図面の前年な説明

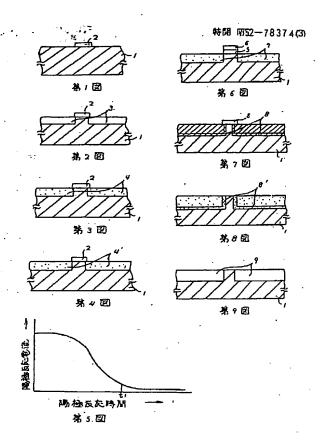
第1~2図は、従来の選択取化技術の一実施例、 明3~4図は、従来の多孔質シリコン裁選技術の 一製機例を示す。第5図は、外部属圧を申加する 事なく、瞬極反応電磁を生せしめた場合の層極反 5

10

15

応電放と時間との関係を示す。そして、第6~9 図は、本発別に保る敵化絶縁層の発達方法の一実 認例の各無違工機における業子の断面図を示す。 配号の簡単な試明

化雞人 弁理士 内原 首



# THIS PAGE BLANK (USPTO)